

「考えさせられる話」2つ

少し「考えさせられる話」を2つします。一つ目は、第一中学校の四戸康雄校長先生が、1月の八戸市中学校長会の時に話していたことです。二つ目は、先週の朝日新聞に掲載されていた、73歳の男性からの投書です。

話その①「東京小景」先日、所用（ショヨウ：用事）があり上京（ジョウキョウ：地方から東京へ出ること）しました。少し時間がとれたので築地に行ってみました。築地場外市場を一巡り（ヒトメグリ：順番に一回まわること）したら、歩道に面して間口（マグチ：家の正面の左右の距離）1間（1.8m）ほどの小さな寿司屋がありました。丸椅子が5脚も並べばいっぱい幅です。70歳は超えていると思われる職人さんがカウンターの内側で握り、これもかなり高齢の昔のお姉さんが道行く人に声をかけています。メニューを差し出すので手に取ると、表紙にマジックで「イングリッシュ」と書いてありました。外国の観光客用です。別に私が外国人に見えたわけではなく、単なる渡し間違いでしょう。で、日本語メニューと取り替えて中を見ていたら、驚くべき言葉が耳に入ってきました。「スペシャルミソスープ ワンハンドレッドエン プリーズ」。これを歩道の小テーブルで食事の外国人に話しかけたのです。確かに店の品書き（シナガキ：品物の名前と値段を書いたもの）に、「生のりみそ汁100円」とあります。驚くと同時に、感心というか感動しました。私にはっきり聞き取れたのですから、いわゆるネイティブ（「その土地の言語」という意味から、英語をアメリカ人のようにスラスラ話すということ）の発音ではなく、日本語のカタカナどおりの発音そのままの英語なのです。もちろん、英語の教科書の文法に照らしたら正しい語順ではないでしょう。でも、大事なことは正しいか正しくないかではなく、英語を使うということでしょう。このお姉さんは、外国人観光客の増加に伴い、必要に迫られて、何とか自分の意思を伝えようと頑張っているのです。恥ずかしいとか間違った表現だとかは関係なく、話しかける勇気があるということがすばらしいと思いました。これこそ「生きる力」であり「コミュニケーション能力」なのではないかと思いました。

話その②「10円の今川焼（イマガワヤキ：こちらでは大判焼とも言います）」私は1959年4月に高校に入学しました。

日によってはご飯が食べられないくらい家が貧乏だったので、先生のすすめもあり、学年で一人奨学金を借りることにしました。借りられることが決まった時は、本当にうれしかったです。

奨学金は月に千円で、当時高校への月の支払いは990円でした。高校の事務室から、毎月入金があるという連絡がきて、私は差額の10円をもらっていました。その10円で今川焼を買って食べました。温かくふっくらしており、甘くてとてもおいしかったです。しかし、両親や4人のきょうだいのことを思い出して、「これでいいのかな」と自問自答いたしました。それでも、毎月のその時間が楽しみでした。

高校を卒業後は、東京で就職し、5年間で奨学金はすべて返済しました。

街で、最近では少なくなった今川焼の店に出会いますと、自然と涙が出てまいります。たくさんの方にお世話になり、今があることに感謝の気持ちでいっぱいです。

どちらも、大変いい話だと思います。一つ目の話は、「何のために勉強するのか」とか、必要にせまられたら「恥ずかしい」とか「どう思われるか」とか関係ないということを教えてくれているような気がします。二つ目の話は、感謝の気持ちをいつまでも持ち続けることができるかどうかで、その人の人生は全然違ったものになってくるのではないかと思います。1・2年生もちろんですが、特に3年生は受検に向けて勉強していて、「何のためにやっているんだろう」と思うこともあるかもしれません。目の前の、志望校に合格するためではありますが、それよりも「将来の生きる力を養うため」でもあります。そして、自分の周りには、心から心配して見守ってくれているご家族や先生方がいるということに感謝できれば、もっともっと能率よく勉強できたり、気持ちも楽になってイライラしなくなると思います。「そんなこと」と思う人もいるかもしれませんが、自分が大人になった時は、確実に私の言ったことがわかるはずですよ。これだけは断言します。

【今日のひとり言】

●今日の私の似顔絵は、1年生の

3人による合作です。

実は、7月8日の1学年懇談会の時に、参加された方用に特別号を発行したのですが、その時に描いてもらったものの再使用です。とうとう、女子バレーボール部に描いてもらった似顔絵も使ってしまいこのような再使用になってしまいました。次はどこの部にお問い合わせしようかと考えているところです。